科目名			担当教員	
福祉用具と生活支援（旧科目名：福祉機器論）			関川　伸哉	
科目コード	単位単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
DF3121 DF3163	4	1（注）	RorSR（講義）	2年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2024 年度入学者までが履修登録できる科目です。
※本科目は、「福祉機器論」から 2014 年度より「福祉用具と生活支援」に科目名が変更されました。
※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2025 年度は開講しません（次回開講は 2026 年度）。
（注）2020 年度のスクーリングより、スクーリング単位 1 単位（8 コマ）に変更されました。
科目コード　DF3121　2019 年度までのスクーリング受講者（スクーリング単位 2 単位）
DF3163　上記以外の方（スクーリング単位 1 単位）

科目の概要

■科目の内容

福祉用具と聞いて、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。知られているようで、知られていないのが福祉用具であります。福祉用具とは、日常の便利な「道具」です。我々が生活の中で用いるハサミや包丁などと同様で決して特殊なものではありません。しかし、わが国では、福祉用具導入および使用には見えないバリアが存在するようです。

ここでは、福祉用具について理解するのではなく、ヒトと福祉用具の関係について考えていただきたいと思います。主役は、福祉用具ではなくヒトであることを充分に理解してください。利用者を理解することができなければ、福祉用具を理解することはできません。また、福祉サービスおよび各種公的制度の理解も欠かすことのできない項目です。本科目では、主に以下の内容について理解していただきたいと思います。

⑴　わが国の高齢化の背景と今後の動向を理解しながら、高齢者と福祉用具の関連性を多角的に考察する。
⑵　わが国の障害発生原因と今後の動向を理解しながら、障害者と福祉用具の関連性を多角的に考察する。
⑶　福祉用具の歴史、定義、各種支給制度について総合的に理解し、わが国の今後の動向を考察する。
⑷　自立とは？自立につながる福祉用具の意味と活用方法について理解する。
⑸　高齢者と福祉用具―介護保険制度から考える―
⑹　高齢者と福祉用具―事例から学ぶ自立支援①―
⑺　高齢者と福祉用具―事例から学ぶ自立支援②―
⑻　高齢者と福祉用具―事例から学ぶ自立支援③―
⑼　福祉用具の選び方・使い方

■到達目標

１）わが国の超高齢者社会の現状と課題について説明することができる。
２）何故、福祉用具が必要とされているかを説明することができる。
３）今後必要となる専門性について説明することができる。
４）福祉用具を必要としている人々について説明することができる。
５）“適合”の重要性について説明することができる。

６ ）福祉用具を適合させるために必要となる知識と技術の基本について説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

スクーリング評価 or 科目修了試験 100%

■教科書・参考図書

【教科書】

京極高宣・市川　洌共同監修『三訂　福祉用具の活用法』北隆館、2007 年

（最近の教科書変更時期）2014 年 4 月

（スクーリング時の教科書）教科書は、参考程度に使用します。当日、必要資料を配布します。

【参考図書】

関川伸哉ほか『義肢装具総論』医歯薬出版株式会社、2008 年

社会福祉法人名古屋総合リハビリテーション事業団編『これで安心！買う前に読む福祉用具の選び方　福祉用具ハンドブック』大井企画、2002 年

勝平純司ほか『介護にいかすバイオメカニクス』医学書院、2011 年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

2000 年から施行された介護保険法は、我が国における福祉用具の普及および市場の拡大に大きく寄与したといえる。また、介護保険法の制定により、福祉用具が多くの高齢者の生活支援の道具として広く用いられることとなった。要介護認定を受けた高齢者は、介護保険を用いることにより、様々な福祉用具の中から貸与（レンタル）また購入（特定福祉用具）のいずれかの方法により入手することが可能となった。しかし、「介護保険制度見直しの具体的課題」において、福祉用具を提供する専門職の質および提供過程に関する問題が指摘された。

福祉用具使用の目的は、介護量の軽減以上に利用者（高齢者）の自立の促進にあるといえる。身体上の障害を有した高齢者が、福祉用具を適切に用いることにより、より多くの活動が可能となり、日常生活をより主体性をもって営むことができる。そのためには、利用者の生活、身体機能、使用目的などを総合的に理解し、「適合」の視点から正しい福祉用具の提供が不可欠であるといえる。身体・環境に適合していない福祉用具の使用は、二次障害を生み出す主要因ともなり、介護予防の低減にもつながる。超高齢社会をむかえる我が国にとって、適切な（適合した）福祉用具の供給は社会全体として取り組むべき急務であるといえる。本講義では、主に高齢者を対象とした福祉用具を用いた生活支援の在り方について（実際の事例を中心とした講義から）「適合」の重要性について学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	はじめに 福祉用具が必要な理由	講義内容及び到達目標の確認 わが国の社会保障制度と福祉施策の変換から
2	福祉用具及び補装具とは	福祉用具法及びその他制度からみた分類・他

		義肢装具を中心として機能と特徴から学ぶ
3	福祉用具利用者の変化	障害者支援から高齢者支援への変革とその理由
4	高齢者の福祉用具に関する問題提起	福祉用具導入時の適合の重要性について学ぶ
5	適合支援と多職種連携の重要性について	適合支援の取組みと多職種連携の方法について
6	高齢者の車椅子を考える	高齢者の車椅子適合に必要な６つの要素について
7	デザイン思考を踏まえた開発	次世代型車椅子の紹介
8	まとめ	今後の福祉用具利用者の動向と課題等について
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイント（複数事例含む）および配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。可能な範囲で参加型学修を取り入れていきたいと思います。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況 20%＋スクーリング試験 80%（一部持込可：スクーリング時指定）。試験では、スクーリングでの講義内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：８時間）

教科書を一読してください。また、主に高齢者施設で使用されている車椅子の現状とそこから見えてくる課題について可能な範囲で、調べてください。

事前学習は、調査時間含め概ね８時間は必要かと思われます。

■スクーリング事後学習

わが国の高齢者福祉施設で用いられている車椅子の課題と具体的解決方法について、しっかり復習してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	福祉用具等に関わる専門職の動向 （第 1 部）	ソーシャルインクルージョンを基本理念とする中で、多職種連携をふまえた介護保険制度等の活用による高齢者支援と福祉用具の役割について理解する。 キーワード：福祉用具、高齢者、介護保険制度、住宅改修、多職種連携、ケアプラン、介護予防、など	福祉用具は、生活を支える重要な用具です。しかし、多くの方々が介護用品等のイメージを持たれています。自立支援の視点を中心に、二次的側面から介護者の負担軽減をふまえ、今後の福祉用具活用の方向性と課題について考えてみてください。

2	ケアプラントと福祉用具の活用法 （第１部）	ケアプラン（介護支援計画）を作成する際に、必要となる基本事項とその中で福祉用具が果たす役割について理解する。 キーワード：ケアプラン、生活支援、訓練、人的介護、福祉用具選定、専門職、介護負担、導入時期、など	福祉用具は、生活の幅を広げ、利用者の自立（できる事を増やす）支援を促す道具です。個々の利用者の身体機能のみに着目するのではなく、生活をデザインする中で福用具が果たす役割について考えてみてください。
3	ケアマネジメントと福祉用具 （第１部）	ケアプランを検討する際には、はじめに利用者の生活全体を把握する中で“実現可能な生活をデザイン”することが大切です。ここでは、ケアプランと福祉用具を用いた生活改善の関係性を理解する。 キーワード：ケアプラン、質の管理、サービス、福祉用具事業者、家屋内環境、オムツ、モニタリング、利用者ニーズ、製品特性、など	介護保険では、12 項目の貸与及び５項目の購入の福祉用具があります。アセスメントからケアプラン作成の際に、福祉用具を効果的に活用するための導入方法について考えてみてください。
4	介護保険の動向と福祉用具 （第１部）	介護保険制度は、定期的な見直しが行われ課題の整理を行いながら改正されています。ここでは、介護保険制度の動向とその中で用いられる福祉用具の今後の課題と役割について理解する。 キーワード：介護保険制度、介護報酬、福祉用具貸与、福祉用具利用者、福祉用具ガイドライン、情報開示、レンタル事業所、など	介護保険制度の動向を把握する中で、福祉用具のレンタル事業の質を如何にして担保しながら、利用者に適切な福祉用具の供給を可能にするかについて考えてみてください。
5	排泄と福祉用具 （第２部）	排泄ケアは人権にも関わる重要な項目です。排泄ケアを考える際には、利用者のアセスメントが欠かせません。ここでは、オムツ、パッド、ポータブルトイレ等の福祉用具導入の際のポイントについて理解する。 キーワード：アセスメント、ADL、排泄ケア用具、自立、介護力軽減、オムツとパッド、スキンケア、ポータブルトイレ、など	介護力軽減が主体となったオムツやパットの導入は大変危険な選択です。アセスメントを通して、適切な排泄形態と福祉用具の選択について、事例等を通して多角的に考えてみてください。
6	移動補助とベッド（特殊寝台） （第２部）	この章で示すベッドとは、福祉用具としての特殊寝台です。特殊寝台を導入する目的は、単なる睡眠に関する事項ではなく、背臥位から座位・立位の一連の移動（動作）手段の確保と特殊寝台の関係性について理解する。 キーワード：移動（動作）パターン、寝返り、起き上がり、座位、特殊寝台、３モーター、特殊寝台付属品、自立支援、高齢者の動作、など	高齢者のベッドは、単なる寝具ではなく自立支援の道具といえます。背臥位から起き上がり、立位にいたる一連の動作を考える中で、何故、特殊寝台が必要なのか？導入の意味について考えてみてください。

7	褥瘡予防用具とベッド（特殊寝台） （第２部）	人間は、生活の中で頻繁に姿勢を変えます。これは、一箇所（主に骨突起部）に圧がかかることによる身体負担の軽減（褥瘡発生予防）の目的としています。ここでは様々な褥瘡予防と福祉用具について理解する。 キーワード：褥瘡発生部位、褥瘡発生原因、座位時の褥瘡予防、臥位時の褥瘡予防、移乗時の褥瘡予防、褥瘡予防用具、体圧分散寝具、など	身体機能が低下した高齢者や脊髄損傷等の障がい者にとって、褥瘡予防は生活全般に関わる重要事項です。ここでは褥瘡に関する基本事項および臥位（臥床）・座位・移乗時の褥瘡予防と福祉用具の関連性について考えてみてください。
8	口腔ケアの実際 （第２部）	口腔ケアは、生活の中で自然に行われることが重要です。口腔内を清潔な状態に保つための器質的ケアと食べるための口腔内づくりを行う機能的ケアの双方について理解する。 キーワード：口腔内状況、口腔ケアの方法、口腔ケアの役割、歯ブラシ、舌苔、洗口剤、器質的ケア、機能的ケア、嚥下、咀嚼、など	食事は、生活の中で楽しみの一つでもあり、生涯にわたり食事を自立するためには口腔ケアが重要です。ここでは口腔ケアの目的と、基本的な方法を学ぶ中で咀嚼・嚥下についてもあわせて考えてみてください。
9	車椅子と座位姿勢 （第３部）	高齢者の車椅子は、単なる移動手段ではなく快適な座位の提供が重要です。また、適切な座位の提供が次の生活の拡大に繋がることを意識しながら、主に姿勢と車椅子特性の双方について理解する。 キーワード：高齢者の座位姿勢、座位保持能力、アジャスタブル（調整）機能、モージュル機能、車椅子クッション、選定の基本、身体寸法、６輪型車椅子、など	座位は、立位同様に抗重力動作であり、筋力を必要とする（がんばる必要がある）ものです。高齢に伴う身体機能の低下により、座位姿勢を保持することが困難な高齢者が増えています。ここで紹介される車椅子は、かなり基本的なものばかりですが姿勢と車椅子の関係について考えてみてください。
10	福祉車両と電動カート （第３部）	超高齢社会を迎えたわが国では、年々福祉車両のニーズと開発が増えてきています。また、自分で操作可能な電動カートの普及も増えてきています。ここでは活動・参加の視点から上記用具導入の意味について理解する。 キーワード：福祉車両の動向、低床バス、車椅子、減税措置、自操式車両、使用環境、海外事情、電動カートの特徴、電動カートの種類、導入時の注意事項、など	福祉車両や電動カートの導入は、社会生活における活動・参加の促進に繋がるものです。将来的には、福祉車両が特別な車体でなくなるものと思われます。電動カートは、高齢者の身近な移動手段として広く使用されています。今後をふまえて身近な（生活）の視点で考えてみてください。
11	介護リフト選定と生活支援 （第３部）	リフト（ホイスト）と吊り具の使用により、介護者及び要介護者の双方に大きなメリットがあります。リフト及び吊り具の種類と特徴を理解する中で、導入時のポイントと選定方法の基本について理解する。 キーワード：リフトの種類、リフトの特徴、吊り具の種類、吊り具の選定、高齢者の身体特徴、目的別と吊り具の選定、移乗介護、車椅子、入浴、安全性、など	移乗動作を支援するホイストと吊り具には、様々な種類があります。中でも吊り具の選定は、利用者の身体機能・寸法や使用目的により細かく分類されています。安全な移乗動作を形にするために、具体的なリフトと吊り具の導入方法について考えてみてください。

12	介護リフト活用ポイント （第３部）	リフト（ホイスト）と吊り具の導入の際には、生活全般の把握が必要となります。また、特性や機能の異なる複数のリフトや吊り具の中から適切なもの選定する必要があります。ここではそれぞれの特徴について理解する。 キーワード：床走行リフト、設置式リフト、据え置き型リフト、各種吊り具、入浴支援、段差解消、階段昇降機、など	高齢者介護の中でも移乗時の介護は、介護者の身体負担も大きく危険因子を含んでいます。“持ち上げない”は、介護時の基本の中の基本です。ホリフトと吊り具の利用は、安全な移乗を支援し、生活全般の幅を広げるものです。介護者及び要介護者双方の視点かリフト導入の効果について考えてみてください。
13	バリアフリー環境と福祉用具（高齢者の暮らし） （第４部）	現状の福祉用具は、“便利で身近な生活の用具”とはまだまだいえないバリアが存在します。単に機能面にのみ着目することなく、使う側の内面に配慮した福祉用具導入の方法について理解する。 キーワード：高齢者の心理、高齢者の心理、表層問題提起、暮らしと福祉用具、など	福祉用具を必要とする高齢者にとって、福祉用具はまだまだ特別な存在です。福祉用具は生活を支える身近な道具でなければいけません。但し、福祉用具に関する“真の”専門知識を有する者は決して多くはいません。ここでは、単なる知識とは異なる視点で、使用する高齢者の内面を意識しながら導入時の在り方について考えてみてください。
14	バリアフリー環境と福祉用具（両輪の理解） （第４部）	介護保険貸与の福祉用具の現状から様々な課題が見えてきています。また、福祉用具の貸与と合わせて住宅改修を行う事例も複数存在します。生活支援の有益な道具としての福祉用具を、ソフトを含めた視点から理解する。 キーワード：福用具貸与、住宅改修、要介護度と福祉用具、ハードとソフト、チームアプローチ、住宅改修と福祉用具、など	福祉用具を有効活用するためには、道具（ハード）と知識（ソフト）の両輪が必要となります。また、福祉用具導入の際には、環境因子の把握が重要であり、必要に応じて住宅改修を含めた検討が必要となります。これもある意味で両輪といえます。ここでは、それぞれの両輪をふまえて導入時の在り方について考えてみてください。
15	10 月 1 日の「福祉用具の日」 （第４部）	福祉用具を用いた生活支援を“真の支援”に繋げるには様々な課題が存在します。専門職の更なる専門性の向上と、一般市民への福祉用具啓蒙の必要性について多角的視点から理解する。 キーワード：福祉用具の普及、福祉用具法、地域の活動、ソーシャルインクルージョン、など	1993 年の福祉用具法制定から 9 年後の 2002 年の同日の 10 月 1 日に福祉用具の日が制定されました。福祉用具が国民にとって身近なものになるために、今後どのような活動を行うべきかについて広く考えてみてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
3 単位め	高齢者およびその家族の QOL 向上を目指した福祉用具の導入について整理、解説せよ。また、具体的事例を示し論述せよ。事例の記載方法については、必ず書籍等を参照してから書くこと。
4 単位め	以下の項目の中から、2 つを選択し、課題にそくした内容で全体を整理し考察せよ。 ① 高齢者のための車椅子の選び方・使い方 ② 視聴覚機器の選び方・使い方 ③ ヒトの立ちあがり・座りこみと機器との関係 ④ 楽に安全に歩こう―歩行補助車の選び方・使い方― ⑤ 肢体不自由者のためのコミュニケーション機器

	⑥　自分の足にあった靴をさがそう―足の障害に応じた靴選び― ⑦　ホイストと吊具の選び方・使い方 ⑧　日常生活支援―自助具の種類と使い方―

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

・レポート作成の際には、３つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください（３・４単位）。

・レポート作成の際、引用個所がわかるように本文中に引用文献番号を必ず記載してください。

例）2023 年厚生労働省〇〇調査によれば，〇〇〇〇とされている[1)].

・必ず、各単位で章立てを行ってください。

３ 単位目例）

１．わが国の高齢社会の現状について

２．超高齢者社会と障害発生原因の関係について

３．〇〇

４．まとめ

引用・参考文献

注意）HP 以外の参考・引用文献も使用してください。

【1・2 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【3 単位めアドバイス】

介護を必要とする高齢者およびその家族の支援には、さまざまな方法が考えられます。

現在の主な支援策は、ホームヘルパーサービス、訪問看護、デイサービス、ショートステイなど人的支援が中心となっています。しかし、人的中心の支援には限界と問題があります。ここでは、上記現状の支援策の問題点を明確にした後、福祉用具導入の意義を説明してください。そして、利用者の QOL 向上を目指した福祉用具の導入について整理、解説してください。また、居宅生活内への福祉用具導入の具体的事例について示し、論述してください。

（注）　具体的事例の記載方法に誤りのあるレポートが複数存在します。身近な真実に基づいた事例でなくても結構です。事例（年齢、性別、疾病・障害、他）の記載方法については祉用具の活用事例」を紹介したホームページ等でしっかり学習してください。

【4 単位めアドバイス】

福祉用具にはさまざまな種類、導入場所、使用者が考えられます。ここでは、レポート課題のまとめとして、各自の興味のある内容を２つ選択してみてください。次の事項を充分に考慮しまとめてください。

１つは、テーマを充分に理解することです。テーマとレポートの内容が合致していなければ、この時点で採択されません。

２つめは、利用者（ヒト）が主役であることを充分考慮してください。利用者が見えてこない解説は望ましくありません。「どのようなヒトが何に困っているのか!?」を明確にしてから福祉用具の内容に入ってください。

３つめは、テーマが抽象的であるため、解説内容の絞込みを行う必要性が生じる場合も考えられます。その際には、必ず「何故、その内容に着目したのか」を明確にしてください。記載がない際には、採択されませんのでご了承ください。

■レポート評価基準

適切な章立てを行い、各章がバランス良く記載されるように努めてください。

科目修了試験

■評価基準

内容を適切に整理・理解できているかを評価します。主に以下の内容が重要となります。

- わが国の高齢社会の現状と課題について理解できているか。
- 今後必要となる専門性について理解できているか。
- 福祉用具を必要としている人々について理解できているか。
- 補装具の特徴を理解し、福祉用具に必要な要素が理解できているか。
- 現状の課題を踏まえて、福祉用具の適合の重要性が理解できているか。